

# NHKスペシャル

## ファイナル・ジャッジ

### 命をめぐる決断

#### ～阪神・淡路大震災の教訓を生かせ～

2019年1月17日(木)午後10:00～10:45(総合テレビ)



大地震に見舞われたとき、ひとりでも多くの命を救うためにどうすればいいのか…。6月に起きた大阪北部地震では、119番通報したにもかかわらず、「自力で対応するよう」求められる人が相次いだ。いま消防の現場で、救命活動の「優先順位」をつける、トリアージ（選別）の動きが広がっている。それは1995年に起きた、阪神・淡路大震災の体験から導き出された教訓だった。発災直後、救助要請が殺到。「消火なのか救助なのか」「どの現場を優先するのか」。当時の活動記録や証言から、消防隊員たちは迷いを抱えながら活動していたことが分かってきた。「もっと救えた命があったのではないか」。神戸市は、「救助より消火を優先」し、「多くの命を救える現場を優先」することを決めた。こうした動きは全国の消防に広がり、先の大阪北部地震でも実践されたのだ。しかし、優先順位を瞬時に判断するのは、容易ではない。消防が出動しない現場では、市民が救助に当たらなければならない、私たち自身も“命をめぐる決断”を迫られることになる。大きな災害を経験した中で、新たな災害に備えようと模索する様々な「現場」を通して、いまできる備えと行動のヒントを探る。